

循環器診断サポートのご案内

循環器診断サポートは、

貴院で実施した検査結果・所見から、

当院の「循環器専門医」が

診断をサポートするサービスです。

ご用意いただきたい検査結果

可能な範囲で構いませんので、以下の検査結果をご用意ください。

(1) 胸部レントゲン検査

- ① ラテラル像（右下）
- ② VD像

(2) 心エコー図検査

- ① 右側傍胸骨長軸四腔像
- ② 右側傍胸骨長軸五腔像
- ③ 右側傍胸骨短軸断面像【乳頭筋レベル】
- ④ 右側傍胸骨短軸断面像【大動脈弁レベル】
- ⑤ 右側傍胸骨短軸断面像【肺動脈レベル】

(3) 心電図検査

(4) 血圧測定

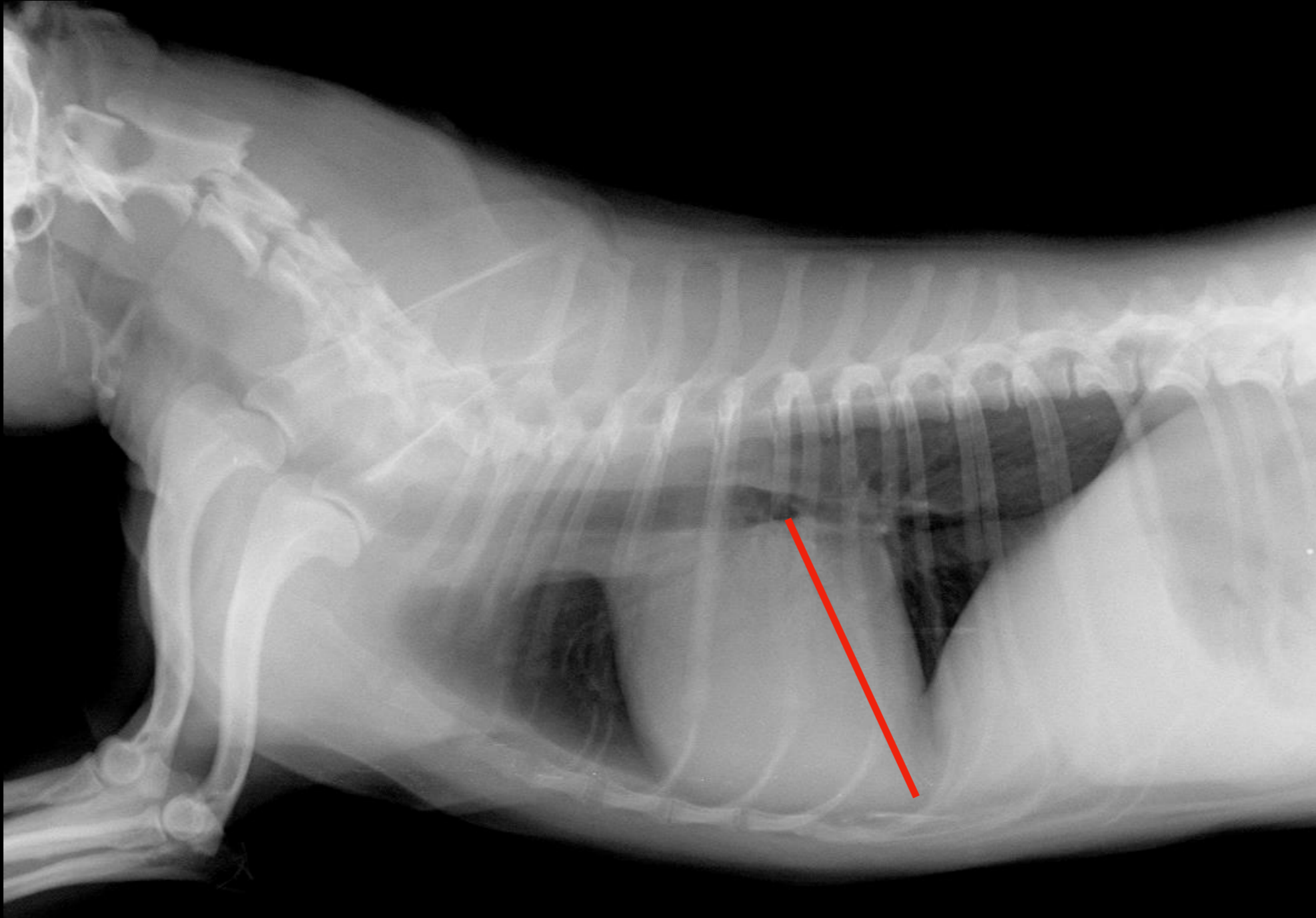
(1) 胸部レントゲン検査

① ラテラル像 (右下)



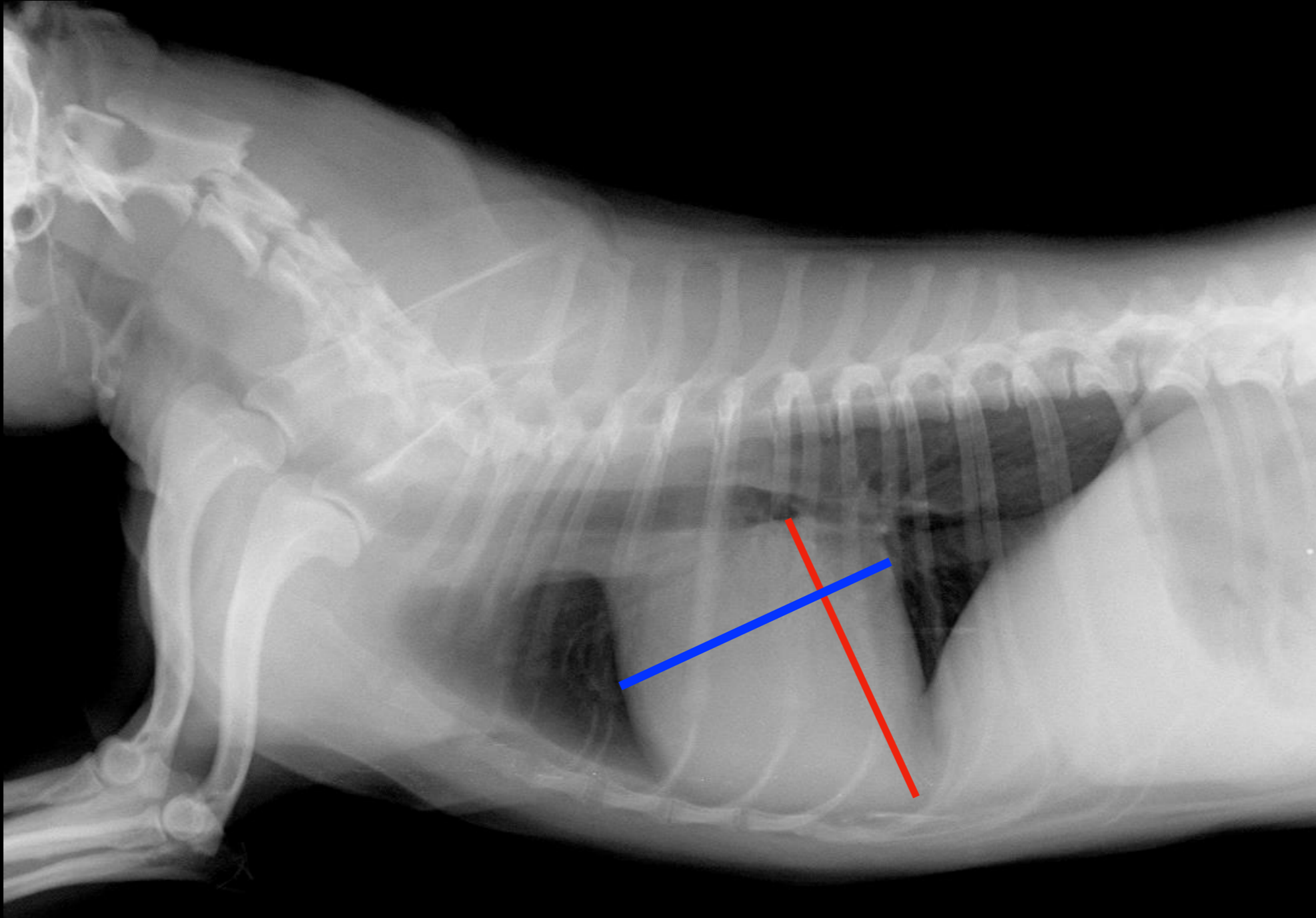
- できるだけ最大吸気で
- なるべく左右の肋骨が重なるように

VHS測定法 STEP 1



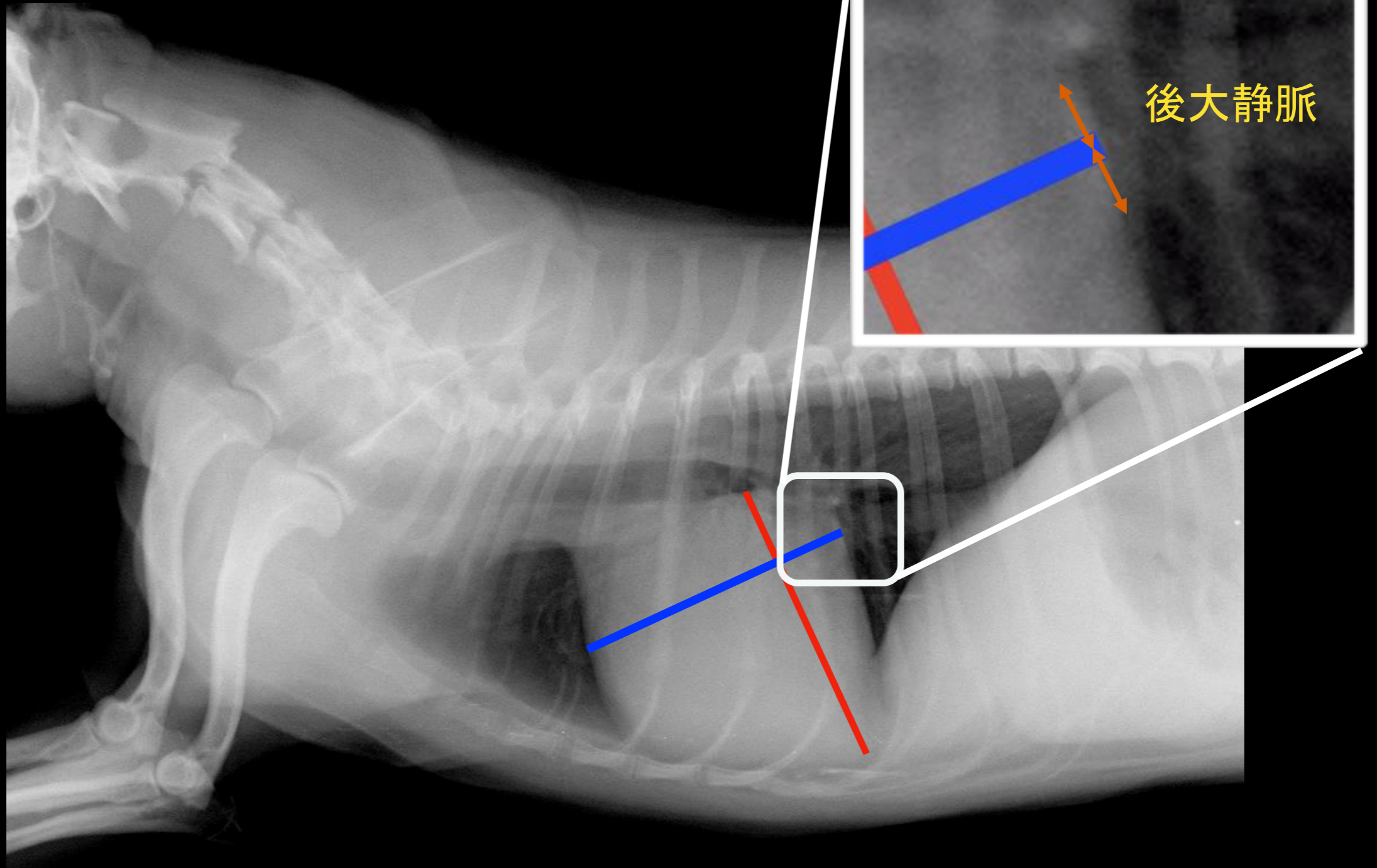
- 気管分岐部から心尖部に向かって直線を引く

VHS測定法 STEP 2



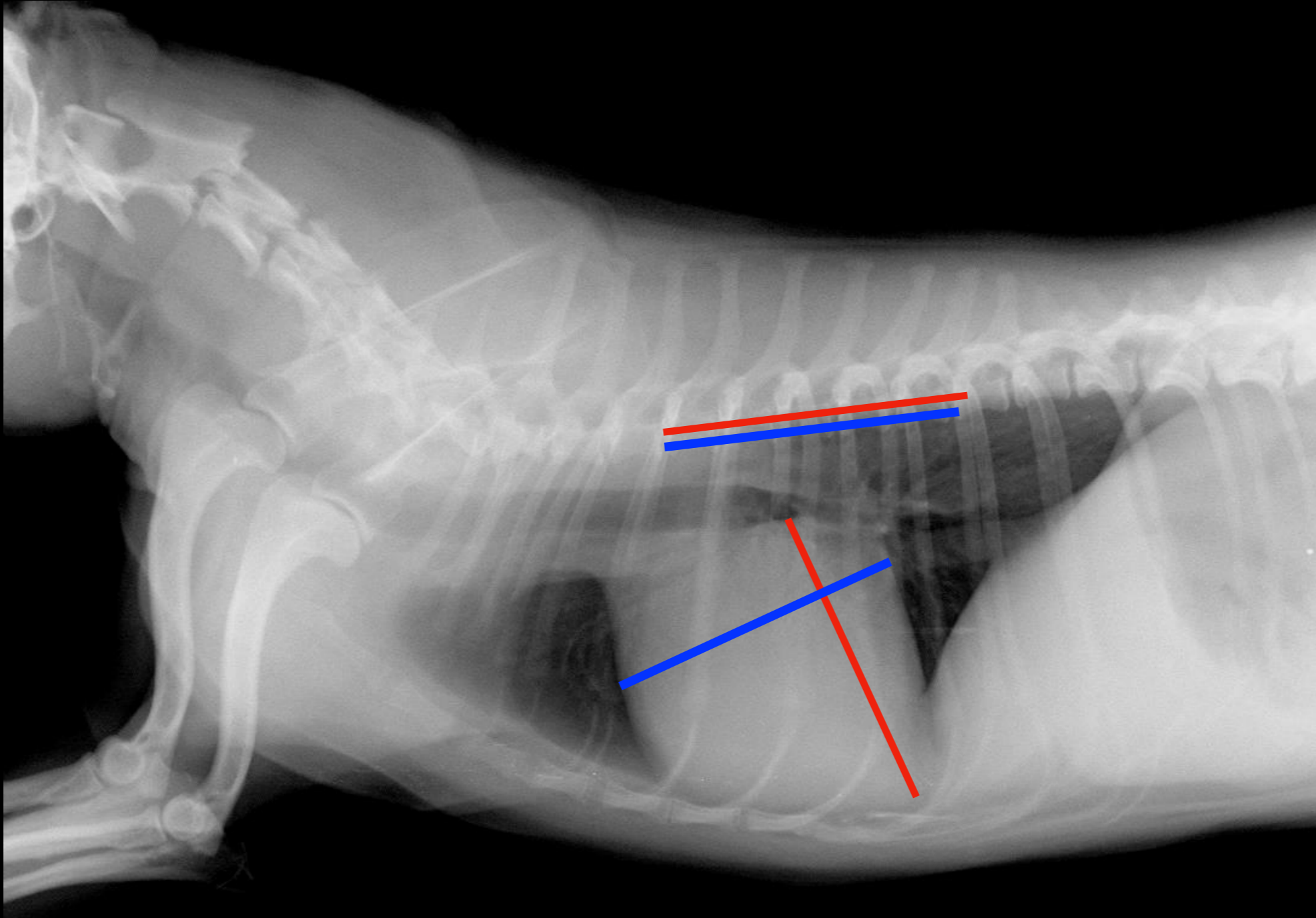
- 後大静脈の中心を始点として赤線に直交する直線を引く

VHS測定法 STEP 2



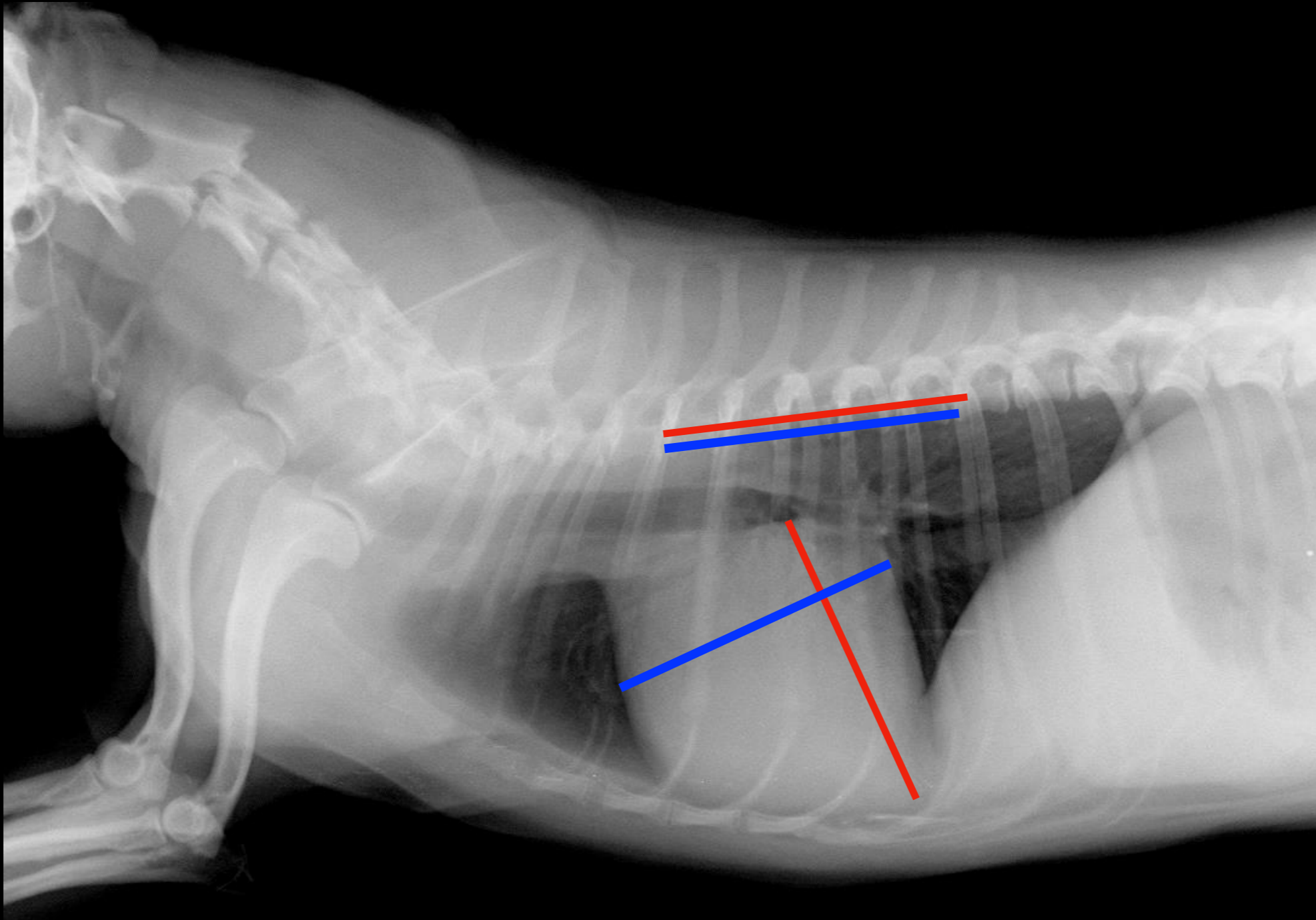
- 後大静脈の中心を始点として赤線に直交する直線を引く

VHS測定法 STEP 3



- 第4胸椎頭側縁を始点としてそれぞれの直線と同じ長さの直線を引く

VHS測定法 STEP 4



- それぞれ何椎体分か数え、加算する
(例) $5.2v + 5.1v = 10.3v$

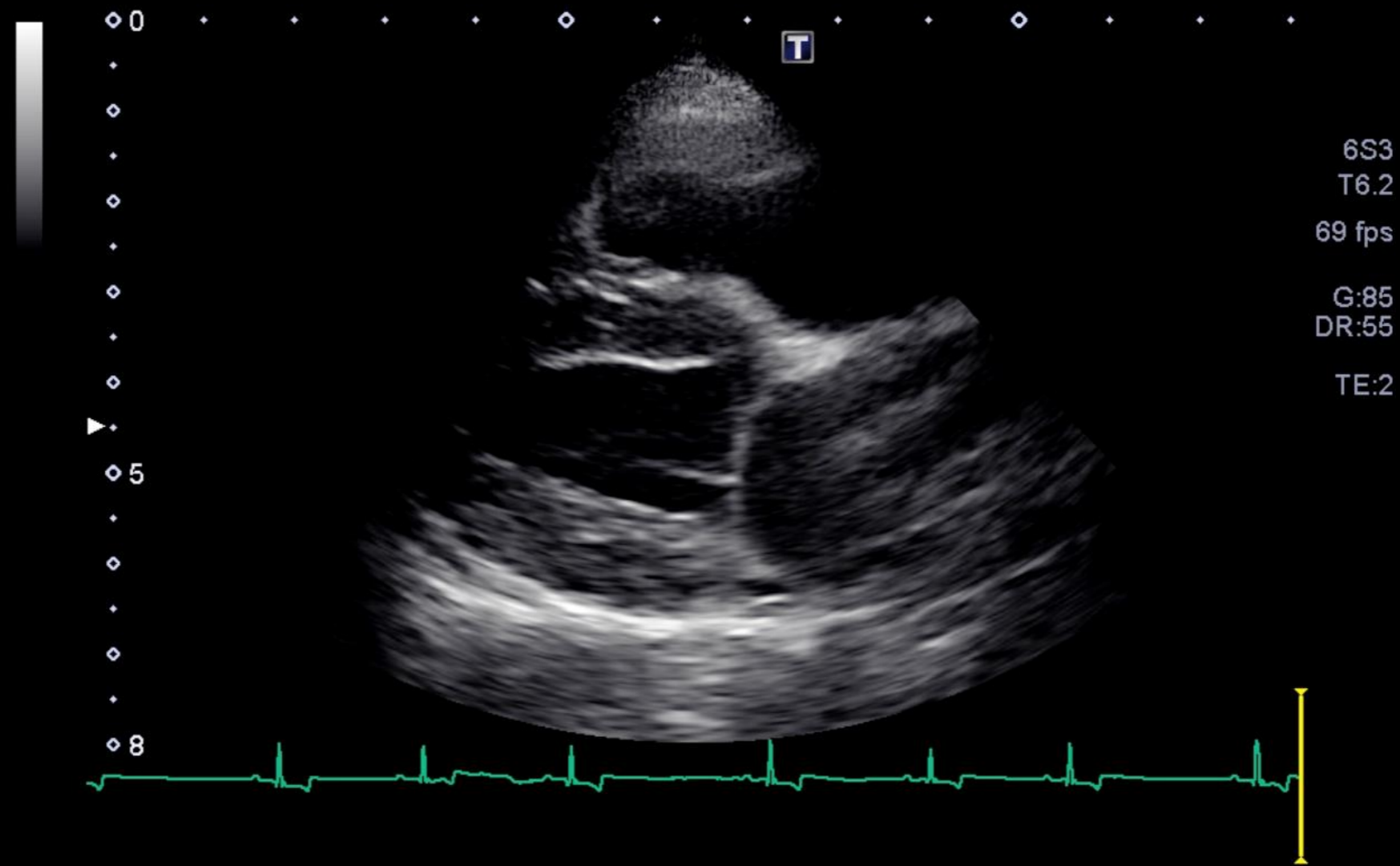
② 胸部レントゲン (VD像)



- なるべく左右対称に
- 胸骨と胸椎が重なるように

(2) 心エコー図検査

①-1 右側傍胸骨長軸四腔像

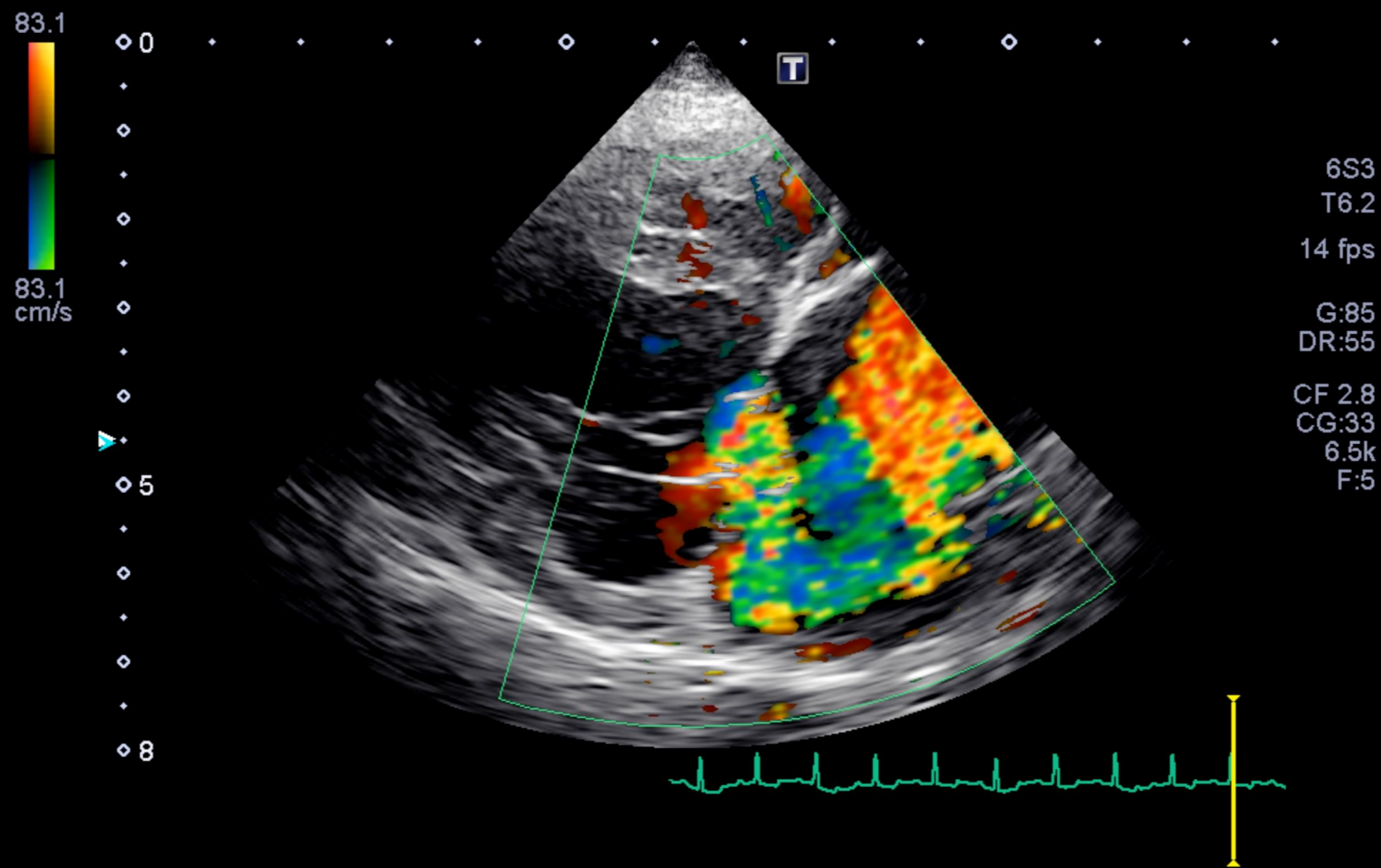


- ポイント

- 超音波に対して心臓がなるべく真横の向きになるように

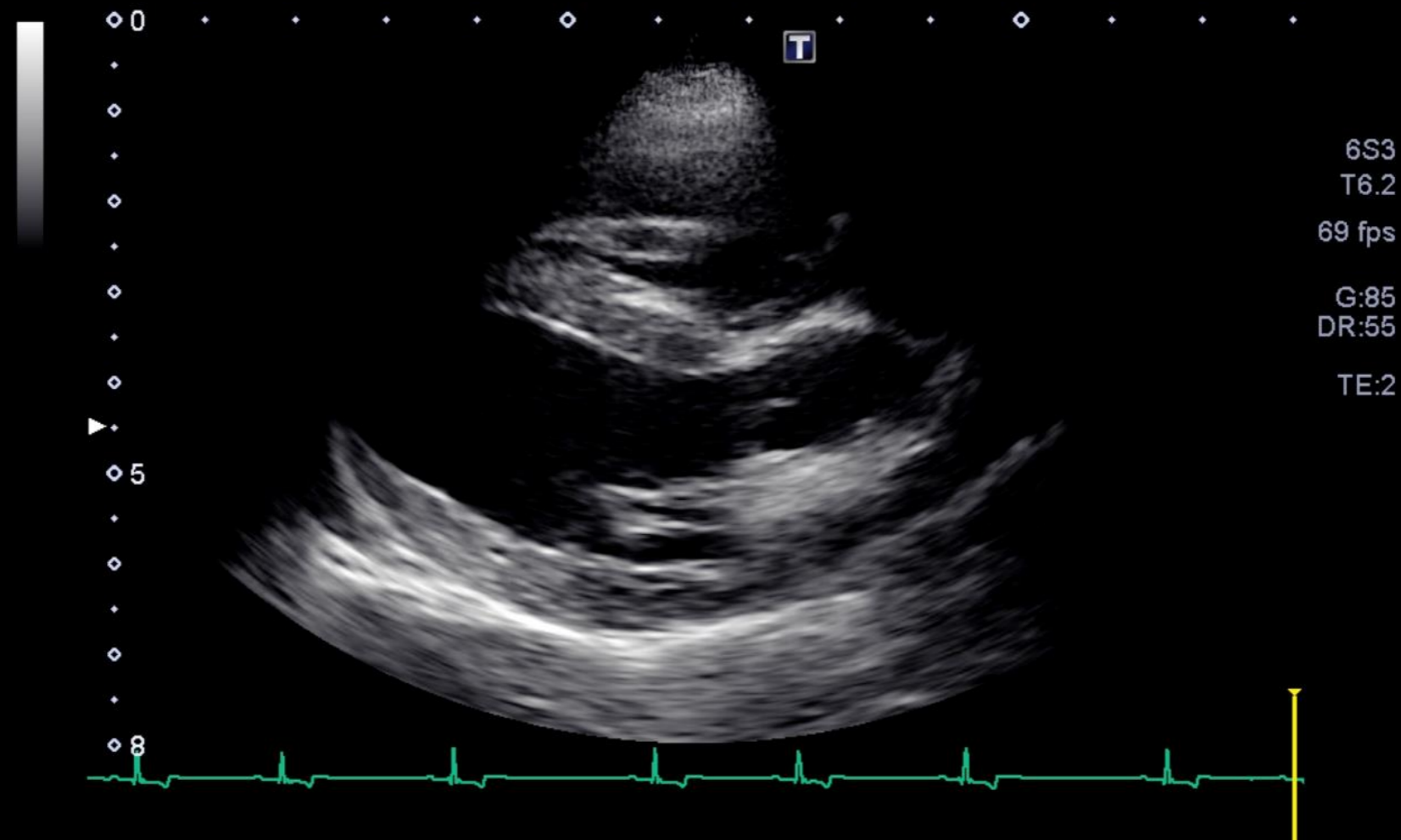
①-2 右側傍胸骨長軸四腔像

カラードプラー



僧帽弁逆流、三尖弁逆流の程度がわかるように

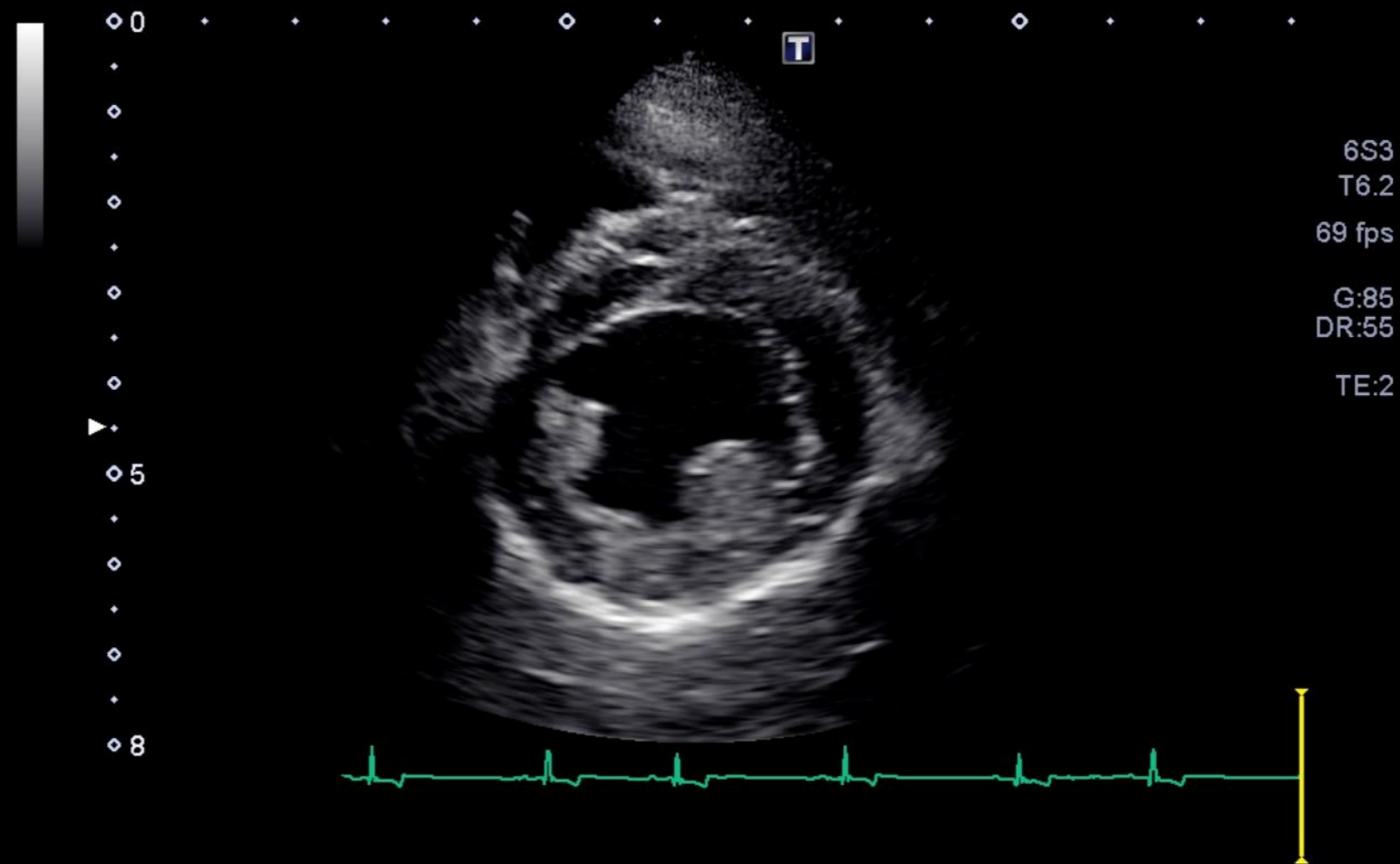
② 右側傍胸骨長軸五腔像



- 大動脈弁周囲の評価に用いる

③-1 右側傍胸骨短軸断面像

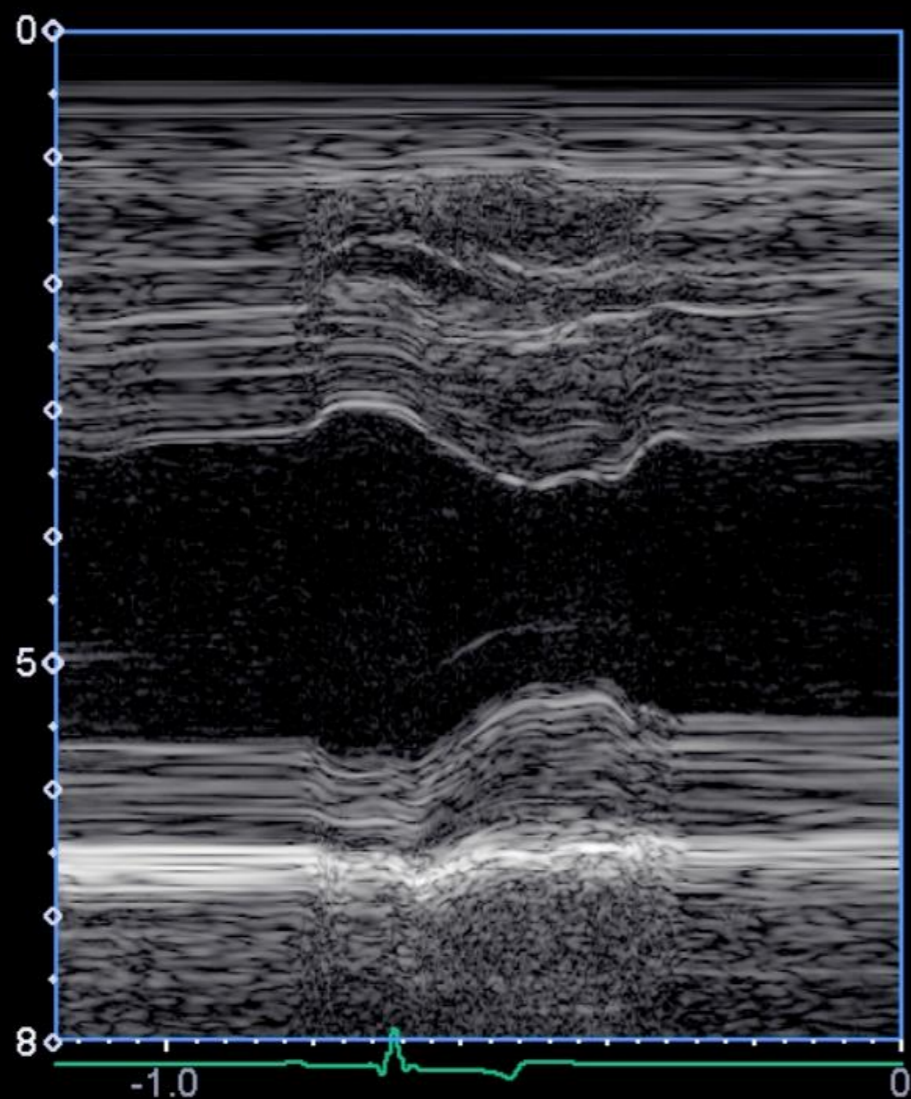
乳頭筋レベル



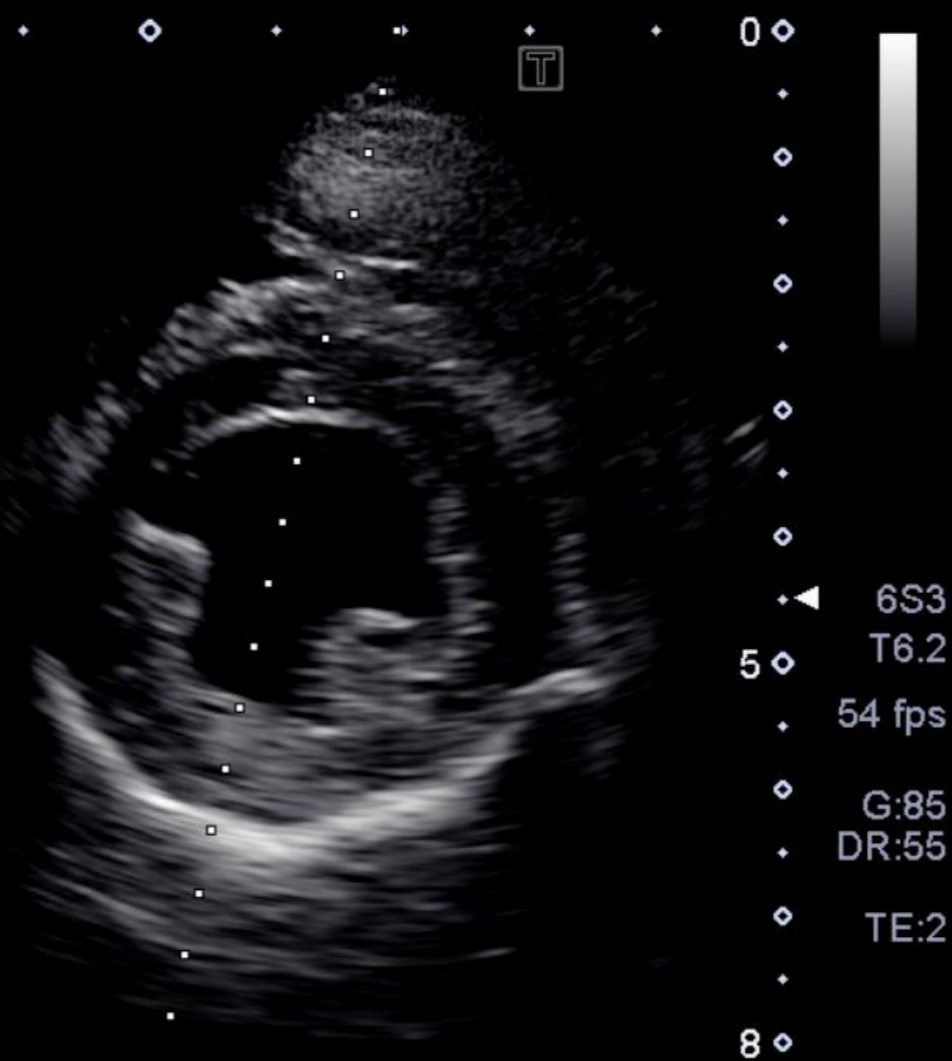
- 左室壁厚の測定やm-mode法実施時に使用する断面

③-2 右側傍胸骨短軸断面像

m-mode測定法

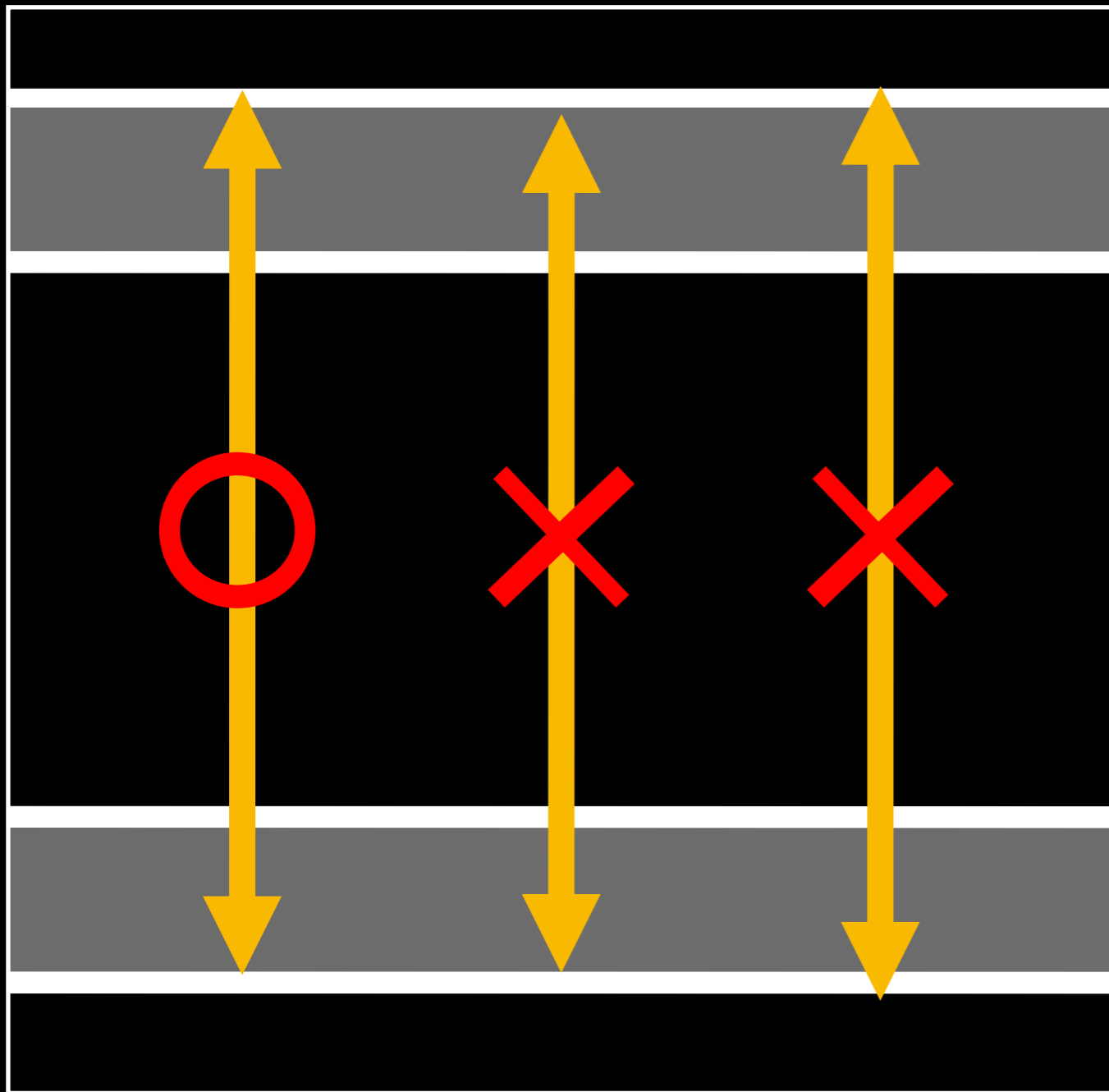


MG:85 / MDR:60 / T6.2



m-mode測定法

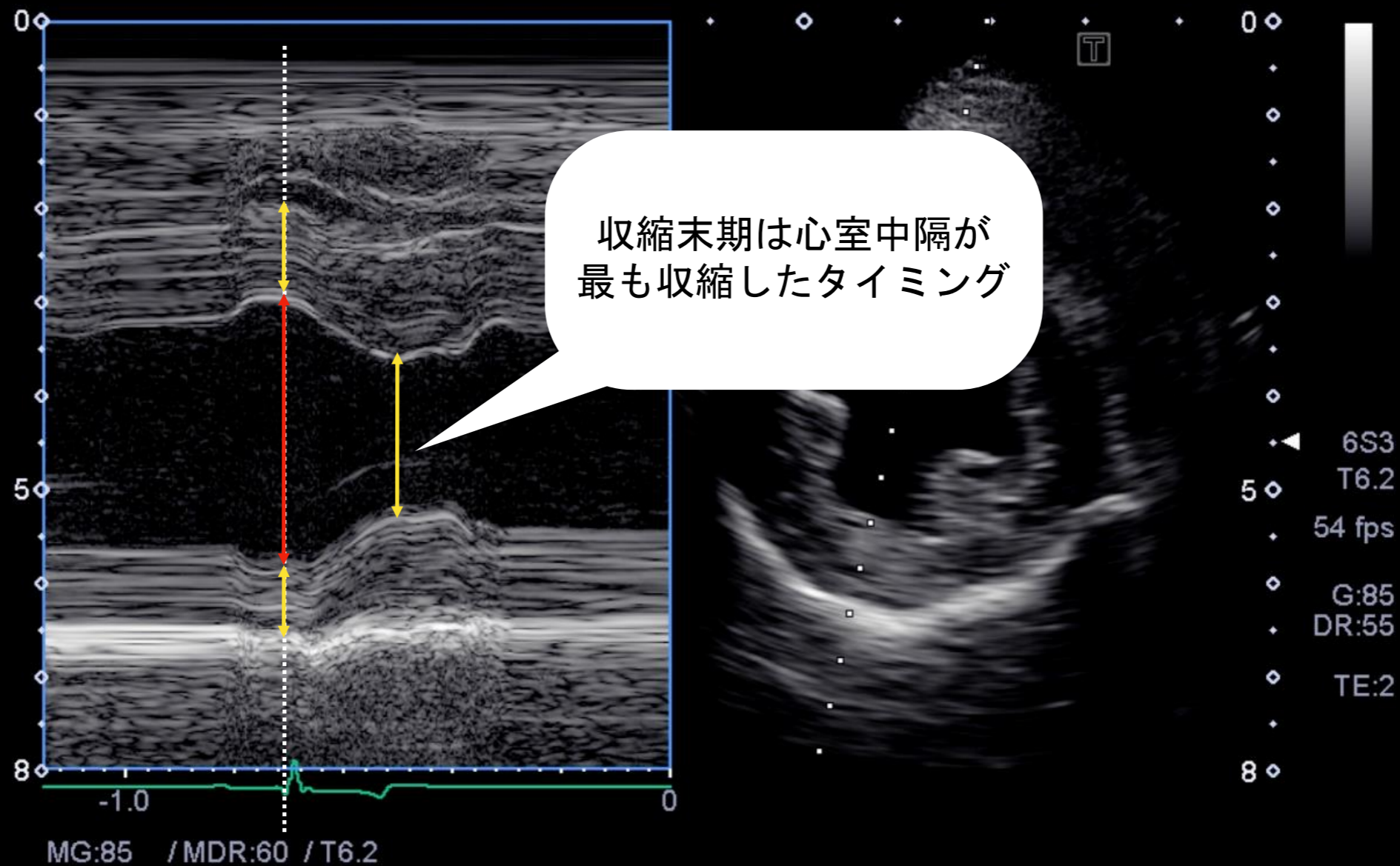
ルール 1 : Lending edge to leading edge法



線の上縁に
ポイントを置いていく

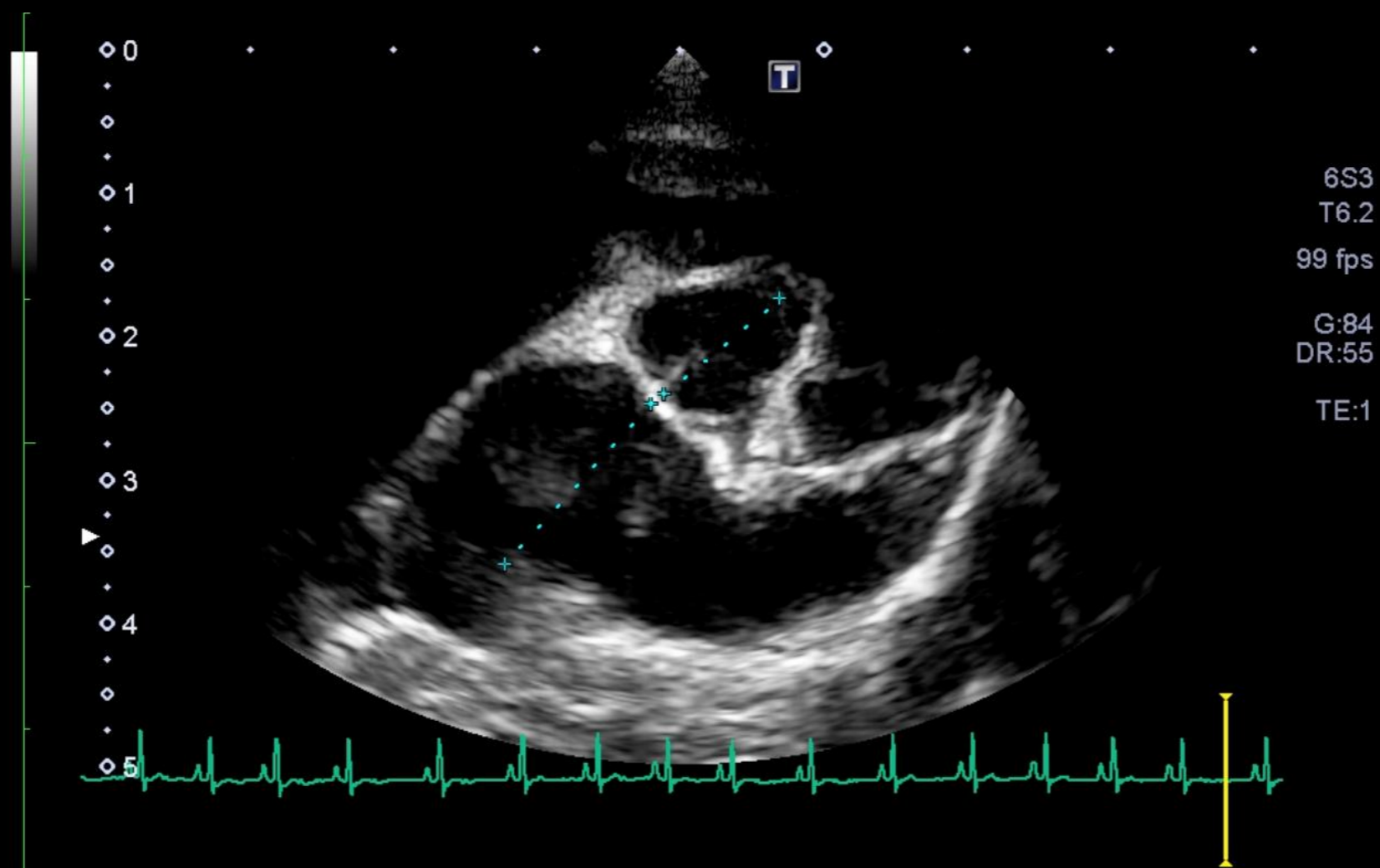
m-mode測定法

ルール2 : LVIDDはQ波の直上のタイミングで計測



④-1 右側傍胸骨短軸断面像

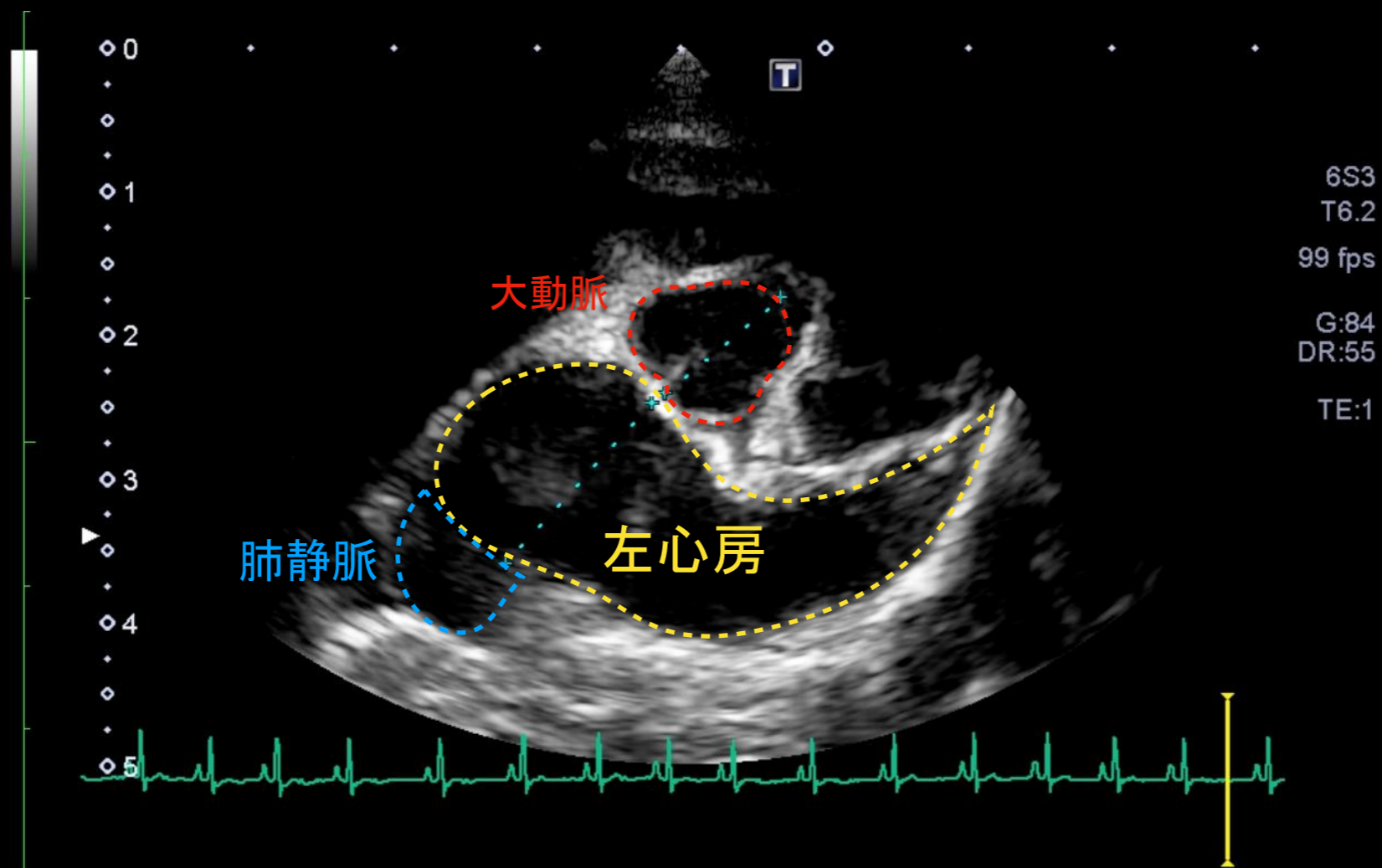
大動脈弁レベル



- LA/Aoを測定するのに用いる

④-2 右側傍胸骨短軸断面像

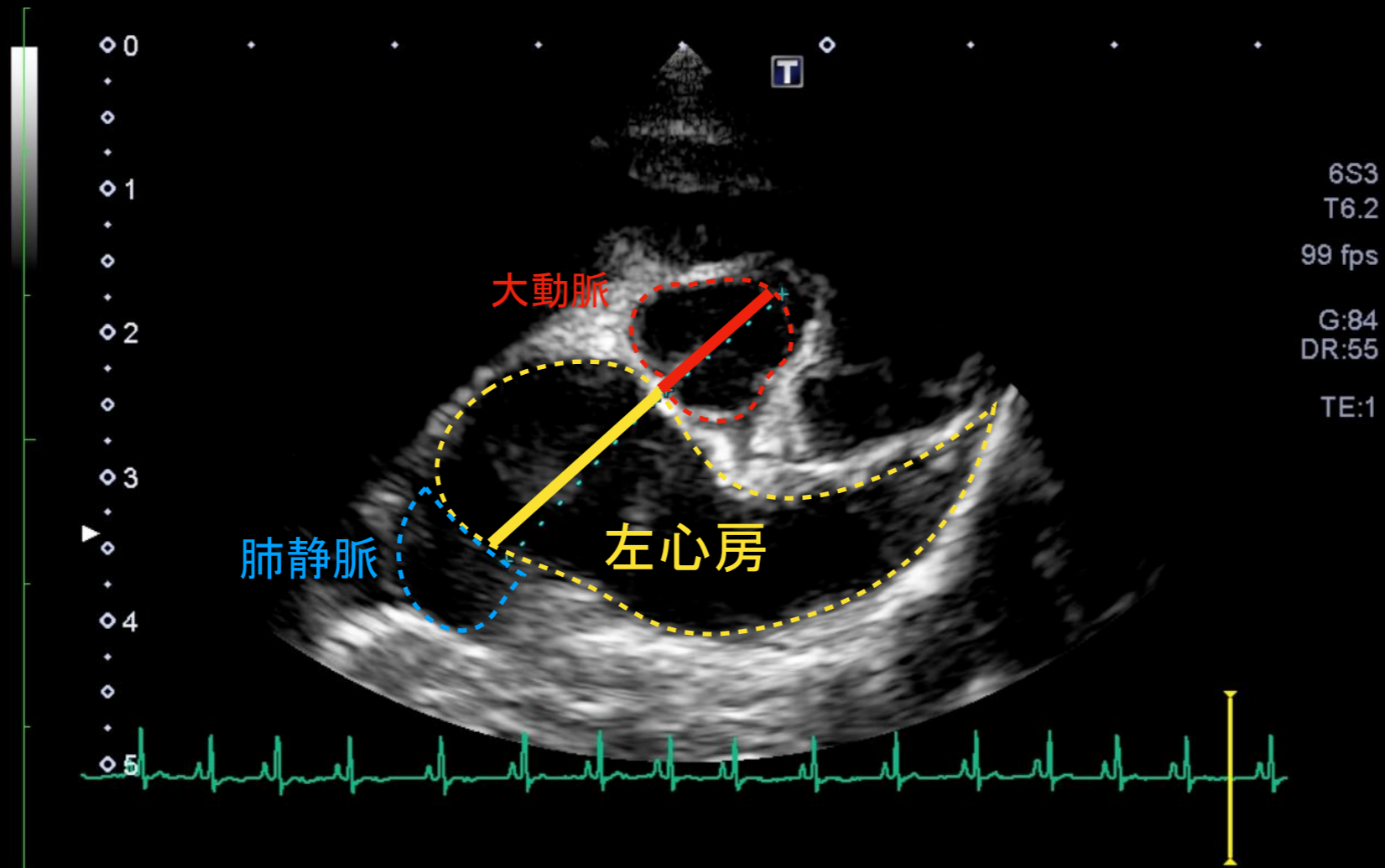
LA/Aoの測定



- 測定タイミング
 - 拡張早期
 - 大動脈弁閉鎖のタイミング
 - 心電図上はT波の終わり

④-3 右側傍胸骨短軸断面像

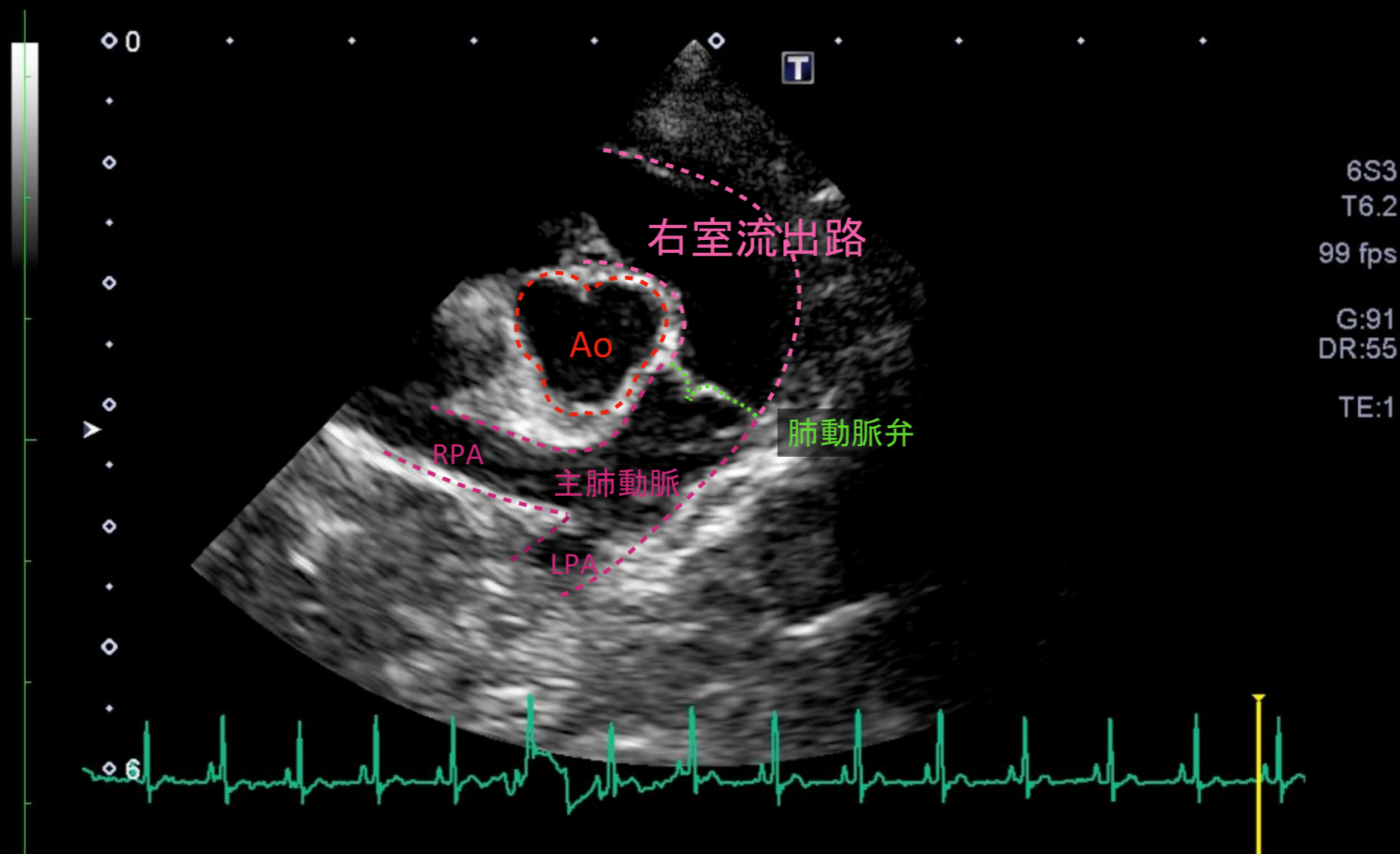
LA/Aoの測定



- 測定上の注意点
 - 左心房径の測定時に肺動脈を含まないように注意

⑤ 右側傍胸骨短軸断面像

肺動脈レベル



- 肺動脈弁の形態評価や主肺動脈の拡張の有無を評価
- PDA、PS、肺高血圧症、フィラリア症などで主たる評価対象となる